

---

# 於小笠原 皆既日食観望記

O.H (1967/観望)

---



## 皆既中の北硫黄島

2008年の相模友の会(TUDOB 神奈川県民4人の会)の飲み会で、来年2009年7月22日の日食をどうするかということになり、「上海はスモッグでコロナはどうなんだろう、やはり国内のトカラ列島あたりが良いのではないか」という話が出た。種々検討したが、トカラはテント生活のうえ費用も40万円程度と条件がすこぶる悪い。奄美島とか種子島はどうかというと飛行機の子約が難しい。これは無理だろうと、あきらめていたのだが、2009年1月に、小笠原海運のおがさわら丸船上日食観測ツアーに応募したところ、幸いにも抽選に当たったので、娘と2人で行くことにした。

7月20日海の日、おがさわら丸に乗船。船底の2等奴隸船室が嫌なので、甲板にビニールシートを敷いた上で、持参のウィスキーを相模友の会メンバーで同じく抽選に当たっ

たI君と飲む。夕刻、船底に戻り寝るが20時半頃目が覚め、ビールを飲んで再度寝る。

I君の奥さんも私の娘も疲れ気味。なにしろ一畳分も無いスペースに詰め込まれている状態である。帰りも2等船室。思いやられる。夜中何度か目覚めたが4時前に起床。シャワー・洗面。缶コーヒーを飲みブラブラしていたが、6時ころ娘が起き出したので、7時半過ぎにレストランで朝食。父島入港は12時前。この日は昼食御の13時半より父島半日ツアーに参加。同行は小学生2人を含む関西系の家族4人と私の娘。スクールに会いにはしたが、一通り見学できた。20時半過ぎ、おがさわら丸に再乗船。今度は1等船室2人部屋。I君とビールを飲み、甲板にいた人の32cmドブで星を見せてもらい、就寝は23時半頃。

いよいよ日食当日の7月22日。船内放送にて目覚めたのが6時半。焼きおにぎりを買って、昨日購入したカップそばを食べる。部分食中は日食めがねで見たり、うちわに穴をあけたピンホールの影で欠け具合を確認したりしたが、大概是冷房の効いた涼しい室内にいた。抽選で決定していた観察場所は後方のあまり良い所ではなかったので、11時頃になって本格的に別の観察場所を確保した。ここはおがさわら丸勤務非番の数人がいただけの結構良い場所だった。皆既中は基本的に双眼鏡で観察したのだが、6分以上も続けば、写真を撮る暇もあり、35mm水中カメラで数枚撮影した。でも、空が暗くオート状態ではシャッタースピードが遅くなるため、ぶれており鑑賞に堪えるものではなかった。

しかし、この日の為に購入したCanonの防振双眼鏡(12×36)で見たコロナは最高だった。ポーラープリズムが明瞭に見えるなど、無黒点状況のせいかな極小期型のように見えた。ただ赤道面のコロナの広がりはいさいように感じた。娘がデジタルカメラで撮影した露出オーバーのオート写真でも、赤道面左右が細く伸びず台形っぽく見えていることで分かると思う。又第三接触直前は彩層のピンク色も観察できた。娘のほうは第三接触時のダイヤモンドリングがいたく気に入ったようだった。確かにダイヤモンドリングも綺麗だったし、後部は見えていないので360度の確認はしていないが、前部右舷側も左舷側も少な

くとも180度は夕焼け状態であり、その幻想的な美しさも格別なものであった。

おまけがもう一つ。太陽前面にある黒い月面の海が見えたことである。

以前写真で見たことはあったが、直接目で見えるとは思っていなかったのが驚いた。

しかし残念ながら、当初の観察目標であった第二接触時のシャドウバンドだけは確認できなかった。まあ準備もしないで、太陽に背を向け、船体の灰色の壁を見ていただけだから見えなくて当然かもしれない。皆既日食の観望は無事終了した。船内アナウンスは第四接触まで律儀に続いたが、こちらは即ビール。まあ、気楽な観望だった。

以下に若干のデータを示しておく。(おがさわら丸提供)

#### 日食第一接触：

9時59分48秒、

E141° 04.7 N25° 42.5

#### 第二接触：

11時23分39秒、

E141° 17.2 N25° 36.3

#### 第三接触：

11時30分16秒、

E141° 18.0 N25° 35.8

#### 第四接触：

12時51分47秒、

E141° 34.7 N25° 29.0



コロナ by 娘

夕刻17時50分下船。夕食に、島寿司他・日食特別メニューを食べ、外で星を見てみたが、近くに灯りがあるため良く見えず、且つ暑いので中止し早々と21時に就寝。

翌23日の9時頃に前浜へ行き、娘を個人的水難防止監視員に任命したうえで、一人だけシュノーケルとマスクを着け泳いだ。縞模様の魚など3種類ぐらいを見かけ、写真も撮ったが、一枚だけ縞模様の魚が写っていた。港の近くなので無理もないが水中はそんなに綺麗ではなかった。船上日食観測をしたはずの「ふじ丸」が寄港していた。

7月24日ゴロゴロしている10時頃、I君より娘の携帯へ電話が入り、1等に船席切り替えが可能とのこと。港に向かい、直ぐに手続きをする。まあかなりの出費にはなったが、快適さを買ったと考える。I君夫妻と同室で竹芝までということになった。小笠原太鼓の中、乗船。出港後が狂巻だった。ルーザー10隻程が湾の出口まで並走しながら乗員が手を振る見送り。ダイビングでもした若者なら再度来島しようという気になるだろう。なかなかの感激風景だった。その後は船室内で飲み、かなり酔った。またもや焼きおにぎりを買い、シーフードヌードルと一緒に食べた後、18時過ぎ就寝。

7月25日、3時過ぎに目が覚め、読書。窓からは星が綺麗に見え、オリオンが昇った直後だった。16時前に竹芝入港。浜松町にてI君夫妻と別れ、新宿からロマンスカーで帰宅したのが18時過ぎ。シャワーを浴び、ビールと食事。寝たのは21時半頃。トータル70時間を超える船旅は結構疲れるものがあったし、総旅行費用は2人分で40万円ほどになってしまったわけだが、今回の皆既日食がきちんと見えたのは、インド方面と太平洋方面に限られ、上海組もトカラ・屋久島・奄美方面もほぼ全滅に近かったようで、我々は非常に幸運であったと思わずにはいられない。

次回は退職後、2012年国内で金環食を見た後、2017年USA皆既日食をかみさんと見る予定だが年金生活で行けるかどうか？

以上